

日本YWCAの使命(ミッション)
イエス・キリストに学び、共に生きる世界を実現する
世界の人々と共に人権・平和・環境の問題に取り組む

第29総会期主眼
平和を実現する人々は幸いである—マタイによる福音書5章9節

- 日本YWCAビジョン2015
(1) 非核・非暴力による平和を構築する
・ 平和憲法をまもり、世界に広める
・ 市民レベルで東北アジアの信頼関係を築く
・ 女性と子どもを権利をまもる
・ パレスチナYWCAの活動を支援する
(2) 若い女性のリーダーシップを養成する

YWCA

SEP. 2007

発行所 日本キリスト教女子青年会
〒102-0074
東京都千代田区九段南4-8-8
Tel. 03-3264-0661
E-mail. office-japan@ywca.or.jp
編集発行人 石井摩耶子
振替 00170-7-23723 (毎月1日発行)
定価1部 150円
年間購読料2,200円 (送料込)
www.ywca.or.jp

YWCA世界総会開催 2100人の女性が集結

4年に1度のYWCA世界総会が、ケニアの首都ナイロビで開催された。会則改正と加盟承認のための臨時総会が7月3日～4日、通常の総会が7月9日～11日。まん中の7月5日～7日に国際女性サミット (IWS) という日程で行われた。日本YWCAからは総会代議員6名と傍聴15名の総勢21名。うち7名は、7月1日～2日の若い女性のための総会前会合 (フレ総会) にも参加した。



IWS参加者による、HIV/AIDSと共に生きる女性との連帯をアピールするピースラリー (2007.7.7)

「世界125カ国2500万人の女性が参加する…」というフレーズに耳馴染みがあるが、これはYWCAの活動の広がりを表すもので、4年前のプリズペン総会時の正式加盟はちょうど100カ国であった。未加盟国のうち、今回の総会に加盟申請したのは、ブルンジ、コンゴ、モザンビーク、スーダン、ヤンピオのアフリカ勢に、アジアのインドネシア、中米のホンジュラス、そして、広大なロシア連邦。7カ国の新加盟を承認し、総会で議決権を持つ加盟YWCAが107となった。それぞれに厳しい政治的・社会的状況を漂り抜けてきた姉妹たち。歓迎の拍手と喜びの踊りがはじかれた。特にスーダンの場合、20年以上も内戦状態(ダルフール紛争を含む)が続いており、現状ではスーダン共和国全域に出かけることは不可能。南のコンゴ民主共和国との境界に近いヤンピオ地区に限定しての出生となった。電気なし、電話なし、新聞なし、交通機関なしのなないつくし。その誕生には、ノルウェーYWCAやYWCAやアフリカ地域のYWCAの惜しいない支援があったと聞く。

●IWS (国際女性サミット)
IWSのテーマは「総会参加者900人に他団体からの1200人を加えた空前の規模で、世界中からHIV/AIDSに取り組む人々が集まった。IWS開会の前日、ポジティブ(HIV陽性感染者)女性だけのフォーラムが500人規模で開かれたことは、歴史的な出来事と評され「私たちに関わること、私たちが進むべき道」(Nothing about us, without us.)と当事者主体が強調された。

「貧困の女性化」(フェミニゼーション)という表現が用いられて久しいが、これは、貧困層に占める女性の割合が大きくなり、女性の問題として貧困に取り組む必要があることを意味する。同様に、HIV/AIDSも女性化が顕著である。以前は男性性愛者に感染が多いようなイメージもあったが、今や異性間セックスで感染した女性が新たな感染者の過半数という。数多くのスピーチの共通項は、「HIVの蔓延の原因は貧困・暴力・男女間の不正義だ。解決のためには、女性のエンパワーメントが何よりも大切」ということであった。女性が知識・経済力・発言力をもつことで、HIVの蔓延を食い止めよう、という大きなうねりを感じた。

●全書参加のチームワーク
今回の日本からの世界総会参加で特筆すべきことに、準備段階からの協働体制がある。Eメールという文明の利器に負った大きな大きいが、核問題ワークショップの準備はもとより、ソノニマーケットへの出店準備、実際のソノニでの店番など、21人の知恵とボランティア精神が花開いた。このネットワークを、今後の活動に生かしていきたい。

大阪YWCA会員・世界総会代議員 室部真理



新潟YWCA ふーん そうだったの 『日本YWCA100年史』読書会

日本YWCA100年史を読みましたか? 一人でひもとくにはひろみぞうな分量です。新潟YWCAでは昨年から勉強会を取り上げ、少しずつ読み進めています。章の初めの概観と見出しを資料としますが、担当する者によって進め方に個性がでて楽しいものになっています。1章ではYWCAが誕生した時代、産業革命後のイギリスの状態を語って、YWCAは生まれるべくして生まれた感を強くしました。2章は日本YWCAが5地域YWCAと共に、底辺にある女性のために労働条件改善にまで目を向けて活動している様子を知りました。うれしいことに新潟YWCA初代会長加藤タカさんが、米国会幹研修に旅立ちましたか? 一人でひもとくにはひろみぞうな分量です。新潟YWCAでは昨年から勉強会を取り上げ、少しずつ読み進めています。章の初めの概観と見出しを資料としますが、担当する者によって進め方に個性がでて楽しいものになっています。1章ではYWCAが誕生した時代、産業革命後のイギリスの状態を語って、YWCAは生まれるべくして生まれた感を強くしました。2章は日本YWCAが5地域YWCAと共に、底辺にある女性のために労働条件改善にまで目を向けて活動している様子を知りました。うれしいことに新潟YWCA初代会長加藤タカさんが、米国会幹研修に旅立ちましたか? 一人でひもとくにはひろみぞうな分量です。

『日本YWCA100年史
女性の自立を求めて
1905~2005』
好評発売中!
2セットケース入り
定価3500円

「協力ありがごとくございませう」
伊藤久子(以下敬称略)
町田裕子
鈴木美奈子
水野素子
小泉由子
井出都
岩崎真実子
松原恵子
鈴木美奈子
須藤和子
北嶋美子
武藤ハツ子
加藤ハツ子
中田トク子
滝田穂子
鈴木美奈子
渡辺順子
今井栄
真野あや
山本康子
黒田幸子
井田すみ
庄子泰子
大澤恵子
高月三世子
今井美奈
山本康子
服部菜
池田子
帆足子
布村美奈子
鈴木美奈子
青木素子
八重樫照代
松岡信子
谷口淳子
浅田和美
伊東きよみ
布村明子
浦田伸子
本城智子
荒川明子
小山内まり
松田和子
古川ミネ子
森原真知子
長本京子
佐々木真子
長津子
八田さと子
桐村直子
島田麗子
小林多美
叶路子
梅川宏道
山田愛子
八木高子

三宅泰子
天野友子
中本貴美子
江口世都
村山成乃
村秀雄
原田由美子
山田康子
岩橋由香
星野花枝
藤助昭子
出崎幸子
谷山久美子
今堀愛子
平野彰子
岸田寛子
千葉シン
鴨打美奈
望月桂一
三浦憲子
宮崎幸子
黒田和子
藤沢貴代子
黒田とつ子
宮谷信子
加藤栄子
毛利亮子
照 徳光美奈子
中山みゆ
和田千鶴子
井上裕美
柴田静子
寺島順子
水田伸子
斎藤多賀子
小野幸富子
北村順子
吉村恵子
安江洋子
櫻井和子
阿武理子
三木ふみ
奥平せし子
田中徳子
有田美紗子
山田妙子
白田梅子
森田子
渡辺子
東山代
桐美津保
中尾廣美
大野幸子
武井真美子
比企敦子
松村ユカリ
堀江直子
片山恵子
井口香世子
石川綾子
小出貴美
池上幸子
山波登子
加納三代
有賀三奈子
岩田陽子
杉田佐紀子
小谷野津子
宗善久子
江上幸子
田沼祥子
村上伸
村上雅子
篠原洋子

祖父江優子
田村惠美子
伊藤いづ子
川村悦子
J・E・ランドレス
ランドレス
村田紀子
田村三保子
大川直子
宮原栄子
加藤三保
藤原正
水野雅子
小池久子
藤原正
具島美佐子
岩崎俊夫
江崎登子
伊藤富美子
瀬戸光枝
松下優子
山本将子
柴田喜久子
山崎雅子
坪田未沙子
佐藤祥子
和田和子
石原千鶴子
村上松子
上原登子
安村純子
木田みな子
山田純子
西田和子
益田明美
森克子
大竹徳子
興水絹枝
荒川知子
鈴木千鶴子
牛島素子
中田茂子
黒田千鶴子
井沢須美子
仁田裕子
黒本千重子
長尾真実子
黒田君子
黒田秀子
サークル明日香
鶴岡祥子
広島YWCA
葛生穂子
ランドレスハル
梅原愛美
Johtakeshi's Box
世界YWCA総会派遣委員
湘南YWCA
福島YWCA
路路YWCA
富安邦子
広島YWCA
沖繩YWCA
中西ト子

一般寄付
唐崎旬代
モリスはつみ
横浜英和
女学院
平和教育賞賛基金
実生律子
国際協力基金(ワロモン基金)
全目教会
熊本YWCA
呉YWCA
新潟YWCA
名古屋YWCA
静岡YWCA
浜松YWCA
甲府YWCA
神戸YWCA
平塚YWCA
広島YWCA
パレスチナYWCA
アフリカYWCA
呉YWCA
訂正
7/8月合併号1面記事の記述のうち、ブルトニウム19は「18億人分の致死量」は、「14億人分の年間摂取の許容限度」の誤りです。お詫びして訂正いたします。前の法令基準「18億人分の年間摂取の許容限度」からの大幅な改訂は、日本政府が最新の法令基準に、ICRP(国際放射線防護委員会)の改訂基準のうち最も甘い基準を採用したことによりです。

ひろしまを考える旅2007 2007年8月9日~12日

今年の旅は、「一人ひとりが大切にされる世界を—ヒロシマから」をテーマに、中学・高校生から大人まで90名近くが参加して行われました。参加者の感想を紹介します。



●改めて命の大切さを感じました。韓国人被爆者についてお話を聞き、学ぶことができました。韓国人の被爆者が出てしまったのは、日本のアジアに対する戦争の歴史があったということを感じ、被害者としてしか見たことのなかった広島原爆を、加害者の目から見て、話を聞き、これからそのことも考えていきたいと思いました。
坂田早 (福岡女学院高等学校2年)
●私が一番有意義な時間を過ごしたと思ったのは2日目のディスカッションでした。年代を超え、同じテーマで話し合うことなど今までになかったことだったし、他の人がどんな思いでこの旅に参加したのか、どのようなことを考えているのかわかる良い機会となりました。(中略) 被爆者の方々に直接お話を聞ける機会が年々減っていくことを残念に思います。でもだからこそ、聞ける今、あったけの言葉を吸収して、この後も憲法9条を守り、私たちの未来を幸せに近づけようと思いました。
矢田部綾子 (恵泉女学園中学校3年)

●過去において、日本は、日清・日露・アジア太平洋戦争といった戦争を始めた国のひとつでした。それらの戦争は多くの人々に被害をもたらしました。韓国も、日本の植民地として痛ましい被害を受けました。(中略) 広島を訪れる前、私は「韓国こそが戦争の被害者だ」と思っていました。しかし、日本もまた被害者であったことを知りました。核爆弾は、60年前と同様に、私たちが脅かしています。(中略) 現代の歴史を変える大きな力になるのは、10代と20代の若者であると感じました。
チェ ヒヨン (韓国 グンサンYWCA) /原文英語

●私にとってこれが初めての日本訪問だったため、うれしさ心配の両方が入り混じった感情を持っていました。韓国・中国と日本の歴史はとてもデリケートなテーマであるため、歴史について皆で話し合うことを心配していました。でも2日目のディスカッションでは、平和の実現に努めようという、明確な結論に達し、うれしく思いました。(中略) 日本国憲法9条に関しても関心を持ち、このことも継続して話しあっていかなくてはならないと思いました。
ペク ジンスク (韓国 ソウルYWCA) /原文英語

●今回「ひろしまを考える旅」に参加するチャンスをいただき、心から喜んでます。日本YWCAがよいプログラムを主催し、平和の道を広げるために努力していることに感謝を申し上げます。今回のプログラムを通じて、60年前に、中国の国民だけではなく、広島市民も同様に戦争から巨大な被害を受けたことが分かりました。二つの民族は同様に戦争からの苦しみを味わいましたので、私は広島市民がこうむった苦しみを十分理解します。

この4日間の間、私は日本の人たちの熱意・友好、また平和を追求する精神を強く感じました。中国・韓国・日本は隣り合って、似ている文化が多いので、3国のYWCAはこれから平和教育に努力していくでしょう。私もここで感じた平和を追求する精神を中国に持ち帰って、多くの人に伝えていきます。(中略) 平和な世界が実現するのは大変難しいですが、だからこそ私たちが若い世代が平和を大事にしなければなりません。繰り返すことは許せない! 平和が永久に存在するように頑張ります!
チャン ヤン (中国 北京YWCA職員) /翻訳・郭潤
●旅を通して、こんなに多くの人たちと知り合えたことがうれしかったです。違う国からの、違った言語を持つ、大勢の人たちが、世界に平和をもたらすという同じゴールに向かって同じ希望を抱いていることに心惹かれました。
サブリーナ ダース (17歳 ドイツ人留学生) /原文英語

準備

「赤紙」の時代、 すべてがここまで… 大城美代子

沖繩戦の降伏調印式は、1945年9月7日。沖繩島の司令官は生存しておらず、他の島々の司令官によってなされた。米軍への投降を許さずいなかっただ日本兵・住民は、なお混在状態を逃げていた。武器をもった日本兵は、住民によって恐ろしい存在だった。地上戦の戦場となった沖繩で、国民を守るはずの軍隊は「何」をしたか。住民を盾にしたのである。私の母を含め、多くの体験者は「軍隊は住民を守らなかつた」と証言している。沖繩戦は「8月15日」に終わらなかった。それから62年。沖繩は米軍基地の島にされ続け、さらに今、米軍のマスタープランに添った恒久基地化にむけて「再編」が進行されている。莫大な費用も日本負担で、米軍のための再編なのに、厚顔にも「沖繩の負担軽減」と言い張る日本政府。辺野古の座り込みは1999日目(7/31)に入った。徹底した非暴力で、しかも、カヌーでの阻害行動に、海上自衛隊の掃海母艦を差し向け威圧する政府。出来高制で雇われているという作業員の暴力が日増しに酷くなっている現場に、監督責任者を置かない無責任な那覇防衛施設局は、米軍基地内から作業を監視し、アセスメント法に違反した作業を強行している。調査内容を明らかにするよう求めるなど、反対運動を理由に拒否する施設局。日本は法治国家だろうかと思いがこみ上げてくる。

種



グンボンスパンタ新総幹事(左)とプレナン新会長は共に30歳代



毎朝の礼拝はジュネーブ在住の日本人女性ココさんが総括、京都YWCAの福岡由里さんも助っ人に入った。

イエスは「何をしたいのか」と言われた。盲人は、「先生、目が見えるようになりました」と言った。

(マルコによる福音書10章51節)

毎年夏には、岩手県にある「カナン園」の工房へお手伝いに行っていました。羊毛や絹や木綿を、辺りの野草やくるみの実・藍の生葉などで染める仕事です。大鍋に煮立つ草の煮汁はどれも濁った泥色で、良い色が生み出されるなど想像もできません。ところがどうでしょう。翌朝、窓辺の風のなかではたらく布たちはそれぞれに、つましく、きつぱりと、美しい色に変わっているではありませんか！ 私たちの計算や予測などのはるか彼方に、創造主が託された命のことが確かにある……！

寺嶋公子(東京YWCA会員・常任委員)

中高YWCA紹介

活水中学校・高等学校YWCA

活水中学高等学校のYWCAは、学校教育方針の一つである「愛と奉仕の精神を養う」ことを活動目標とし、本校では80年の歴史があります。

現在、高校生が毎週決められた曜日の昼休みに、昼食を共にしながら、話し合いのときをもっています。

年間を通しての主な活動内容は以下の通りです。

- *学校行事のときの礼拝司会担当(2名1組)
- *宗教行事の準備
- *近隣教会の清掃活動(月1回)

*施設訪問(5月:花の日、12月:クリスマス)

その他の活動として、風船バレーのボランティア、9月に活水中高で行われる活水祭(文化祭)では、「身近にできる海外協力」としてILCA(INTERNATIONAL LIVING CRAFT ASSOCIATION)の委託販売に協力しています。

同時にCFJ(Child Fund Japan)活動の窓口も行っています。1997年から全教職員・生徒に呼びかけ、希望者が支援させていただいております(現在、活水中高では5人の里子がいます)。

活水中高YWCAは、現在10名の生徒たちと一緒に「私」は「隣人」に何ができるのかを探している最中です。あれもしたい、これもしたいという力溢れる生徒たちです。年に数少ない施設訪問やボランティアを通して、感動や喜び、不安や迷いを経験している生徒たちの姿を見、顧問としてはもっともっと多くの出会いと体験を提供させてあげたいと感じるばかりです。また、YWCAの国際性を含めた広い視野とキリスト教信仰と奉仕の精神を養ってほしいと願うものです。

活水中学校・高等学校YWCA顧問 常泉 晶子・吉田真弥



所在地:長崎市宝栄町15-11 TEL.095(861)5176

52年ぶりの会則改正 & 活動計画・決議事項

日本Y提案「劣化ウラン弾廃絶を求める勧告」採択

●会則改正—7月3日~4日の臨時総会で52年ぶりに会則改正がなされた。半世紀の間に加盟YWCAの数も2倍近くに増え、組織の重要な特徴を明示し、組織の透明性と説明責任を保證する新会則が必要となったため、10年近くかけて準備されたものである。(7・8月合併号参照)。日本YWCAも、新会則の加盟条件を満たすために、運営メンバーの最低25%は30歳以下の若い女性とするよう真剣に取り組み、「適切な組織運営と説明責任の基準」の履行を旨ざしていき。前文と基準は、多様な人々を包括する柔軟な表現に改正された。キリスト教の要素が薄まるとの危惧をもつ10のYWCA、47人の代議員が反対と棄権に回ったが無事採択され、それ以外の部分は満場一致で採択され、会場は歓声と拍手の中でお祝いムードに包まれた。

●今後4年間の活動計画の枠組み—1)暴力や差別・貧困・HIV/AIDSなど、女性の生活やコミュニティに深刻な影響を及ぼしている問題への最善の解決策を開発し実行する女性と少女のリーダーシップ養成 2)政策提言や社会サービスを通したあらゆる面での女性の権利の向上 3)加盟YWCAが組織として最善の説明責任を果たし、組織の有効性・効率性を十分に發揮すること、を目指すことが原案通り採択された。

●決議と勧告—決議と勧告はYWCAが取り組むべき優先課題を示し、政策提言の指針となる重要なもので、特に決議は各国YWCAの履行責任が伴い財政措置もつく。4点が決議された。①女性差別撤廃条約と選択議定書の批准と完全実施のためのロビイングの推進、条約の履行状況のモニタリング、各国政府の国連委員会への定期的報告書作成に参画するか、NGOとしての報告書を作成せよ ②アジアの移住女性労働者や女性の人身売買の問題に取り組み ③国連安全保障理事会決議第1325号にそって、紛争の予防・解決と平和へのプロセスへの女性の参加を促し、女性と少女の平和と民主主義への貢献を促進する市民教育を実施せよ ④中東での軍事侵略や暴力行為によって苦しむイスラエルとアラブ諸国の女性と子どもたちの尊厳と安全を保障し、持続可能な未来のために女性のエンパワメントを支援すること、政策決定と紛争解決への女性の参画とエンパワメントを求めた安全保障理事会決議第1325号の実施を要請する。これはパレスチナとアメリカYWCAの初の共同提案となったが、別個の提案を両国Yが長い協議の末に一体化したため、当初のパレスチナY案からは大分後退した内容になったことは否めない。

勧告は短期的な行動を促すもので今回は9つの勧告が採択された。①国連の中に財政的裏づけをもつ国際的な多国間女性代表機関を創設するよう国際的なロビイングを行う ②次の4年間の行動計画に環境保護のための女性と少女の指導的役割の推進を加える ③各国YWCAは若い女性のリーダーシップを開発し持続させる能力を向上させる ④世界YWCAは、教育に対する指導的な政策提言者になる ⑤世代間の架け橋として31~40歳の女性たちの意見をYWCAのあらゆる政策決定の場に反映し、彼女たちに発言の機会を与え励ます ⑥劣化ウラン(DU)の放射能は女性の性と生殖に関する権利を侵害し、子どもたちの健康を破壊するため、劣化ウラン兵器の脅威について人々の関心を喚起し、その廃絶に向けて行動する(日本からの提案*) ⑦世界Y常任委員会の構成を公平で平等にするために、会長・会計を地域割当て人数に入れず、2人を同じ地域から選出しないよう考慮する ⑧「適切な組織運営と説明責任の基準」の履行状況を定期的に評価する ⑨世界YWCAは、統括者(会長と常任委員会)と運営者(総幹事)のための上記の「基準」にそった職務・責任の分掌や評価のひな形の開発に力を入れる、というもの。

実は会議寸前になって、昨年の段階で日本から提出したが取り上げられなかった核不拡散のための決議案に代わり、せめて勧告案を出したいと考えるに至り、ナイロビに行ってから会議の合間に急遽準備したため大変忙しい思いをしたが、採択されてホットとしている。今後、世界中のYWCAに向けて、劣化ウラン弾のみならず核廃絶に向けての定期的な情報発信をしていきたい。

日本YWCA会長・世界総会代議員 石井摩耶子

*日本YWCAが提案した勧告 劣化ウラン(DU)の放射能が性と生殖に関する女性の権利と健康を侵し、子どもの健康を損なう結果をもたらすことにかんがみ、世界YWCA及び加盟YWCAが、劣化ウラン兵器の危険性についての意識を喚起し、女性と子どもたちの権利を守るために劣化ウラン弾の廃絶に向けて行動を起こすことを勧告する。

Kenya2007 YWCA世界総会報告

生活を変革し、コミュニティを変革する

2007年7月1日~11日



99年以来、日本のYWCAも協力して展開してきた「女性と少女のためのグローバル・キャンペーン」は、89カ国の国境を越え、1億1000万ドル(約12億円)を集めることができ、08年から「変革する基金」として、女性と少女のリーダーシップ開発のために運用されることになった。当初の目標であった2500万ドルの達成をめざし、さらにキャンペーンは続けられる。



2007年世界YWCA総会は、ブレ総会「若い女性のためのリーダーシップフォーラム」は、ブレ総会「若い女性のためのリーダーシップフォーラム」IIでスタートした。世界中から30歳以下の女性250人参加。その熱気とエネルギーに圧倒されるくらい、みなこれから始まる世界総会に向けての期待にあふれていた。オープニングでは世界YWCA

A総幹事のムンシベ・カニヨロさんへの質問コーナー。若い経験が少なくということに引け目を感じることはない、自分たちの居場所を主張し、要求していくべきだという力強い言葉を与えてくれた。若い女性のリーダーシップを育てることに力をいれ、実現してきた彼女のエネルギーに参加者一人ひとりが勇気づけられた。

パネルディスカッションでは7名のスピーカーが意見を発表。コソボの参加者は、自国の紛争経験から12歳の「soldos of war for Peace」を立ち上げた弱冠19歳。普段は学校に通い、おしゃべりもダンスも好きな明るい少女だが、平和を語るその熱意はみなを心動かした。カナダYWCAの女性に対する暴力のワークショップでは事例を用いながら、YWCAの「信頼性」「女性の声の力」「アドボカシーの重要性」が女性への暴力に対する認識を高める運動を推進

して行くのに不可欠と説明があった。国・地域によって状況は異なるが、女性の権利を守ることは世界共通の課題。意見交換は新鮮でもあり、他国の状況を知ら一助ともなった。夜にはナイロビ中心地から少し離れたレストランで、ディナーとダンス。楽しい時間を共有しながら、緊張と期待の初日は過ぎていった。2日目になると、まるで長い間知っていたかのようにみな仲間となっていた。フアンドレイジングのスキルトレーニングでは「エレベーターで寄付してくれそう有名な人に出会った」というワークショップを行った。エレベーターで上階に着くまでの1対1の数は大チャンス。何が問題かではなく、活動の内容とその寄付で何ができるかを明確に伝えて、寄付を得るまでをシミュレーションする。これが意外にも難しい。特にYWCAのような活動範囲の

ワークショップ

日本からは「核」の危険性をアピール

ひとつに「各国YWCAの4年間の総会期報告書を見て、核の問題は日本の局地的な活動ではないか」とあった。これを受け、核の問題は原爆を受けた日本特有の問題でなく、現代も続く世界規模の問題であることを世界のYWCAの姉妹と分かち合うことを目的に、日本YWCAとして力を込めてWSの準備が進められた。また、ナイロビ入り後に総会への提出を決めた劣化ウラン弾反対の勧告案への理解を深める意味もあった。

内容は、①世界中から放射能の影響がある場所を5つ挙げ、②放射能の短期・長期の人体への健康被害と、原爆・原発を作るシステムは同じことを説明。③豆を落とす音から世界の核兵器の量を知るデモンストラクション ④グループ・シェアリングII写真II ⑤核のない世界実現のため参加者全員での劇・デモ。(90分) ①では世界各地のヒバクシャの写真を映し、日本側参加者が写真の本人になりきって朗

読する「フオトランジェン」があり、特に子ども・女性の生殖機能への影響を伝えた。サイトは、原爆(ヒロシマ、ナガサキ)、核実験場(ネバダ、セミパラチンスク、マーシャル諸島)、原発の事故(チェルノブイリ)、劣化ウラン弾による被害(バグダッド・バスラ)、ウラン採掘場(インド・ジャドゴダ)。WS参加者は14カ国(ナイジェリア、レソト、ケニア、ナイミビア、フィンランド、アイスランド、スウェーデン、アイルランド、米国、豪州、東チモール、バキスタン、台湾)のYWCAから20名であった。参加者でヒロシマ・ナガサキを知る人は9割と関心が高い人が集まったことが分かった。欧州の参加者は、チェルノブイリにより、核を身近な問題としてみていくことを知った。フィンランド女性「自分の娘に子どもができないのは、チェルノブイリの影響では」と思うこと。また、原爆について、ナミビア女性が「自国のウラン採掘場はエネルギー問題に必要な



広い団体を焦点を絞りにくい。普段からプレゼンテーションスキルや交渉力を持ち合わせることも、活動の整理も必要であると感じた。最終日には若い女性の参加に呼びかけ、世界YWCAのホームページに若者のサイトを作ることや、E-フォーラム(ネット上の情報交換の場、YWCAの相互訪問や交流を深める提案など)、活発な意見交換が行われた。それを受けてモニカ・ゼツチエ会長がすつとみなの中身を押し出した。「あなたが変えるのよ。自分の人生に優先順位をつけて、新しいドアをノックし続けてほしい」。やさしい口調には、ご自身の人生をもとにした深い意味が込められていた。刺激し合い、友となった私たち参加者は、ケニアを後にするころ、きつとそれぞれの新しいドアをたたいていくに違いない。東京YWCA職員・世界総会代議員 金子まりな